

「県民歯と口の健康プラン」最終評価について【概要版】

参考資料 1

県民歯と口の健康プランについて

1 計画の理念

- ① 県民が生涯にわたり自ら歯と口腔の健康の保持及び増進に向けた取組みや歯科疾患の早期発見・治療を行うことを促進
- ② 県民が適切に、生涯を通じて必要な歯科保健医療サービスをうけることのできる環境整備を推進
- ③ 保健・医療・福祉等の関連施策の連携・協力を得て、総合的に歯と口腔の健康づくりを推進

2 基本目標

生涯を通じた口腔の健康及び口腔機能の維持・向上の観点から『8020運動』をさらに推進

3 基本方針

- ① 歯科疾患の予防、② 口腔機能の獲得・維持・向上、③ 要介護者、障害(児)者等への歯科口腔保健の推進、④ 災害発生時の歯科保健医療対策、⑤ 歯科口腔保健の推進を支える環境整備

4 計画の期間

平成25年度に10か年計画として策定。平成29年度に中間評価を実施。令和3年9月に国の歯科口腔保健の推進に係る基本的事項の計画期間が1年延長されたことに伴い、当計画期間も1年延長し、令和5年度までとした。

最終評価方法及び結果について

○評価の方法

目標値とベースライン値、現状値を比較し、達成状況を評価

- A: 目標値に達した
- B: 目標値に達していないが、改善傾向にある
- C: 変わらない
- D: 悪化した
- E: 評価不能

○評価の結果

評価	数	割合
A	7	29.2%
B	7	29.2%
C	3	12.5%
D	6	25.0%
E	1	4.2%
計	24	

各目標の最終評価結果について

No.	目標(富山県)	ベースライン値	中間評価	最終評価	全国現状値(直近値)	計画目標値	達成状況	現状・課題、今後の方向性
1	【乳幼児・学齢期】 歯科疾患の予防	3歳児でむし歯のない者の増加	77.8% (H23)	81.8% (H27)	87.6% (R2)	88.2% (R2)	90% B	【現状と課題】 ・幼児期、学齢期におけるむし歯に関する指標は増加(改善)している。 ・中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者は減少(改善)している。 ・フッ化物洗口を実施している学校・施設は横ばいで、実施状況は市町村間で格差が見られる。 ・各年代で進行した歯周病を有する者は増加(悪化)している。 ・成人期での歯間部清掃用器具を使用する者は増加(改善)している。 ・定期的な歯科健康診査を受診した者は増加(改善)している。 ・喫煙と歯周病の関係を知っている者は増加(改善)している。 ・不正咬合等は3歳児、中高生は横ばいです。 ・60歳以上の咀嚼良好者は、中間評価と比べ、減少(悪化)している。 ・40歳で喪失歯のない者、60歳で24本以上の自分の歯を持つ者は増加(改善)しており、8020達成者も増加(改善)している。 ・障害(児)者入所施設や介護施設での定期的な歯科検診の実施は減少(悪化)している。 【今後の取組みの方向性】 ○乳幼児・学齢期のむし歯予防 フッ化物洗口の実施学校・施設の市町村間格差の縮小に向けた取組みを推進します。 ○成人・高齢期の歯周病重症化予防 歯科健診・歯科保健指導による早期受診の促進など重症化予防の取組みを推進します。 ○口腔機能の獲得・維持・向上 口腔機能の重要性の普及啓発や口腔機能低下防止の取組みを推進します。 ○要介護者、障害(児)者等への歯科口腔保健の推進 口腔ケアや在宅歯科医療を提供するための体制整備を推進します。
2		5歳児でむし歯のない者の増加	55.9% (H24)	63.8% (H28)	75.4% (R3)	-	70% A	
3		1歳6か月で間食時間を決めている者の増加	75.2% (H24)	77.2% (H28)	82.9% (R3)	-	80% A	
4		3歳児でむし歯がない者の割合が80%以上である市町村の増加	8	14 (H27)	15 (R2)	-	全市町村 A	
5		12歳児でむし歯のない者の増加	53.2% (H24)	66.6% (H28)	76.7% (R3)	70.6% (R2)	65% ⇒80% B	
6		中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の減少	18.9% (H24)	18.4% (H28)	15.0% (R3)	-	15% A	
7		12歳児の一人平均むし歯数が1.0本未満である市町村の増加	8	12 (H28)	15 (R3)	-	全市町村 A	
8		フッ化物洗口を実施している学校・施設の増加	33.8% (H23)	32.6% (H27)	33.5% (R4)	-	50% C	
9	【成人・高齢期】 歯科疾患の予防	20歳代における進行した歯周炎を有する者の減少	37.0% (H23)	43.3% (H29)	50.6% (R3)	-	25% D	
10		40歳代における進行した歯周炎を有する者の減少	52.1% (H23)	61.5% (H29)	63.9% (R3)	-	40% D	
11		60歳代における進行した歯周炎を有する者の減少	65.1% (H23)	73.8% (H29)	77.0% (R3)	-	60% D	
12		70歳代における進行した歯周炎を有する者の減少	65.4% (H23)	75.5% (H29)	77.3% (R3)	-	60% D	
13		35～54歳で歯間部清掃用器具を使用している者の増加	45.5% (H22)	44.7 (H28)	62.0% (R3)	-	70% B	
14		過去1年間に歯科健康診査や専門家による口腔ケアを受診した者の増加	48.9% (H25)	49.0% (H28)	53.5% (R3)	-	65% B	
15		喫煙と歯周病の関係を知っている者の増加	34.1% (H22)	38.2 (H28)	39.3% (R3)	-	50% B	
16	口腔機能の獲得・維持・向上	3歳児で不正咬合等が認められる者の減少	12.6% (H24)	13.3% (H27)	13.4% (R2)	14.0% (R1)	10% C	
17		中学生・高校生における不正咬合等が認められる者の減少	12.5% (H24)	11.9% (H28)	12.4% (R3)	-	10% C	
18		60歳以上における咀嚼良好者の増加	-	65.1% (H28)	55.6% (R3)	71.5% (R1)	80% E	
19		40歳(35～44歳)で喪失歯のない者の増加	59.2% (H23)	66.8% (H29)	66.6% (R3)	-	70% B	
20		60歳(55～64歳)で24本以上の自分の歯を有する者の増加	59.7% (H23)	67.2% (H29)	72.7% (R3)	-	70% A	
21	80歳(75～84歳)で20本以上の自分の歯を有する者の増加	45.5% (H23)	44.9% (H29)	46.6% (R3)	-	50% B		
22	要介護者、障害(児)者等への歯科口腔保健の推進	70.0% (H24)	80.6% (H28)	29.0% (R3)	77.9% (R1)	90% D		
23	介護老人福祉施設及び介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率の増加	25.0% (H24)	34.8% (H28)	19.1% (R3)	33.4% (R1)	50% D		
24	在宅療養支援歯科診療所数の増加	11 (H24)	71 (H29)	55 (R4)	-	増加 A		